



日本国際薬膳師会設立5周年記念大会が行なわれました

去る11月23日、日本国際薬膳師会設立5周年記念大会が東京学士会館で行なわれました。厳かな雰囲気の中、日本国際薬膳師会副会長の鷲見美智子先生より開会の挨拶が述べられ開幕しました。中国の河南中医学院の韋大文教授と洪素蘭教授の両教授によるお祝いの言葉や、吉澤加奈子先生による基調講演をはじめ、多くの先生方によるそれぞれのご経験に基づいた貴重なお話を伺うことができました。お陰様で150名余りの方にご参加いただき大盛況でした。また、薬膳レシピコンテストの表彰式も同時に行なわれ、各賞の受賞者には賞状と記念品が贈られました。

祝賀パーティでは、日本国際薬膳師会のこれまで5年間のあゆみが映像で流れ、参加者の皆さんはとても懐かしんでいらっしやいました。設立5周年、まだまだ歩き出したばかりです。今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

尚、コンテスト参加者による「記念薬膳レシピ集」「記念誌」も発売しております。学院までお問い合わせください。



11月24日は終日学院の授業に参加し、とても和気藹々とした雰囲気の中で一緒に薬膳料理を作りました。

本学院は数年来、河南中医学院の先生たちと交流して信頼関係を結び、今後は中医基礎・中医薬膳学・中医養生・未病治療について協力し合うことに双方が合意しました。

河南中医学院は1958年に設立した大学です。「医聖」と称された張仲景の故郷で、伝統的な中医学を守り、『傷寒雑病論』などの經典を重視している学校です。

河南中医学院中医養生研究所 所長 韋大文教授と中医基礎理論学科・中医治未病研究所所長 洪素蘭教授が日本国際薬膳師会設立5周年記念大会に参加するため、2009年11月23日に来日されました。

河南中医学院教授 本校を訪問

『祝辞』

本草薬膳学院顧問 鷲見美智子



10期生及び通信生の皆様ご卒業おめでとうございます。

私は以前、短期大学で栄養士を目指す学生達を教えていました。この学院の卒業式を迎える度にその頃の事を思い出します。卒業していく栄養士には激しく変化する時代の中で、栄養士として働くためには何が必要なのか？何が必要になっていくのだろうか？食の豊かな日本だからこそ何か必要なことがあるのではないのか？基本となる現代栄養学の知識さえ身につけていけばそれでよいのだろうか？かれこれ20年くらい前になると思いますが北京中医薬学院日本分校の事を知り、中医学の理論というものをも自分自身が勉強してみようと入学しました。その頃は全部の授業が中国人講師の中国語の講義の通訳を聞いて理解するという勉強でした。初めて聞く言葉や理論に困惑した記憶があります。理解出来ないながらも勉強を進めていくにつれ中医学の理論のすばらしさを理解することができ、現代栄養学と合わせて考えたいのではということを考えました。現在日本人の食環境は世界でも類を見ないほど恵まれています。問題は1H5Wの何故、何時、誰と、どこで、何を、どのように食べるかということです。心と身体の健康のための食のありかたに、中医学の理論を上手に取り入れることは真の食生活の豊かさにつながるかと考えます。中医学に基づく薬膳を学んだ私達がまず実践し、周囲の人々にも広めていくことができれば、日本人の心と身体の健康の為に貢献することができるのではないのでしょうか？皆様も社会人になってからの勉強は、経済的にも時間的にも大変な上に、今まで聞いた事の無い言葉や理論に戸惑われたことと思います。でも、それを立派に克服なさり卒業を迎えられたことは、本当に立派なことであると、今日のご自分を褒めてあげて下さい。今後、本草薬膳学院で学ばれたものを更に深めて力を付けていって下さい。これからのご健闘を心からお祈り申し上げます。

本日は本当におめでとうございます。

